

玩具 平一丁目  
森下商店  
糸類 まめ屋



冬 特價提供品

- マリヤスシヤツ八 十 錢
- 本年流行シヨール 三圓八十錢
- 純毛都腰卷 一圓三十錢
- 特製婦人毛シヤツ 三圓五十錢
- 本毛シヤツ 三圓二十錢
- 特價ワイシヤツ一圓五十錢

鶴屋洋品店  
平町四丁目  
電話百四十番

新らしき柄ミ安値  
白熱的大好評  
■實用冬セル  
ウールライン

嶄新奇抜な  
■伊勢崎銘仙模様  
結納物一式  
江戸襦・丸帯・小紋錦紗  
豊富に取揃へ申候  
三井吳服店  
平町三丁目電話三十八番



日刊 發行兼編輯人 川崎文治  
本社 同香地 (電話六三〇番)  
印刷所 常新毎日印刷所

刊夕日七十月一十

定部金貳錢 廣五張十二行  
一ヶ月卅錢 料字詰一行  
郵税五厘 料五十錢  
日刊休 日曜大祭  
日祝日ノ翌  
福島縣印刷部 電話三三五  
發行所 常新毎日印刷所  
電話六三〇番

福島縣印伴天染同業組合組織を提唱しつゝある 草野染工場主

獨り染業家は申しません凡ての事業は組織的に經營する事即ち専門工程を聯絡統一して完全なる製品となす事が組織的に作製すると云ふ事其内でも染業は最も此點が必要であります店主此點に痛感する事久ふして福島縣印伴天染同業組合組織を提唱して斯道の知人先輩福島縣工業試驗場長本間孫三郎氏に懇談し此の聲援によりて現在此組織を進行し實現の上は一層専門的に考究して福島縣産物の一に爲さんとするの決心であります現在福島縣内に於て印伴天の専門分業に經營しつゝある店は草野染工場が嚆矢で現在又印伴天専門店に他には無いと存じます草野染工場は十年前既に茲に着眼して印伴天専門印物染分業に經營して居るのであります自他共に本縣印伴天染の先覺者を以て認めて居るの宜なる哉であります目下草野染工場は縣外千葉、新潟、神奈川、三重等に製品を輸出して居ります將來は進んで北海道に樺太に遠征的に擴張し(印伴天は北海道は有望であります)充分本縣産物の優一なるものと努めんと致して居ります夫れには左の條項が最も遠征的擴張の素質でありまして草野染工場は之れを信條として經營しつゝあります故に決して他店に遜色ありません最近の世評に草野染工場と云へば印伴天を思ひ起し印伴天の話しをすれば草野染工場を聯想する云ふ事を皆様より申されまが幸ひにも永年の努力左の弊工場の信條が發揮せられ草野染工場とは印伴天の代名詞となりまして遠近各位より絶大の歡迎を受けて居ります左の信條は確かに萬染物屋(何んでも染める染屋)を征服し得る素質でありまして草野染工場の今日ある次第であります何卒御得意様には此點御諒承下さいまして他店染品と御比較の上弊工場の申上る事御認めの上不相變御引立を御願ひ申上げます

◎草野染工場の信條及優良品の證明

一	元料購入ノ豊富	五	價格ノ廉價納品
二	大量製産	六	紺色合ノ優美 大紋赤ハ當工場ノ獨特
三	雨天乾燥場ノ設備	七	印伴天受賞ノ證明
四	注文品納期ノ確實	八	技巧者ノ聯絡統一

左の方法によりて技巧者の聯絡統一優秀品の作製せらるゝ事が證明されます

草野染工場の技巧組織

- 糊置師 中村利雄
- 同 松浦貫右衛門
- 同 金成保吉
- 意匠師 石川幸太郎
- 襟字揮毫 福島縣 西村印刷所主人
- 外染色部員 同

注意

金成保吉氏トハ同業ノ連名廣告ニアル曰ク東京染業界ヨリ糊置ニ有名ナル技術者ニ行カレタルモ部合上九月下旬歸郷セラレ現在七丁目ニ糊置業ヲ開設セントセラレツ、アルモノニテ一般地方染業者ノ取引ニシテ當工場モ又糊置師トシ取引シ居ルノデアリマス



印半天  
印染物



草野染工場

場主 草野七五三之助  
電話 三四八番

常 警 論 壇

研究ニ實際運

動ミの限界  
衆議院議員 星島二郎

學校の講堂で教授から聞き習つた事を實際に當つてみようと思へば、殊に經濟社會學といふようなもの、如きは、その解剖といふことは結局それらの學問の主体である實際社會そのものに接するといふことにならぬであらうか。その昔、地球は圓いとか、人間の祖先は猿であるとか言ふ意見、或は牛の血を應用した種痘

療法等の如きは、その當時に於ては世を惑はし、人間を辱かしむるものであるとせられ、その當時の學者はひどく壓迫迫害されたものであるが、同じやうに今日の社會科學に於てもそれに類した様な後の世から見れば寧ろ滑稽極まる話が澤山にありはしないだらうか。

にあるのではなくて、その研究の結果を公表し之を或は學生に示し或は學會に發表するといふことにあるのであつて、これは學者としての當然の義務でもあり又その研究の仕事の範圍にも屬するものと思ふ。然るにそれ印刷にした、發行したと言つてはたゞその形からのみ判斷して直ちに之を問題とし(元より強いて取れば宣傳ともなり、所謂實際運動ともなるであらうか)今日迄このために純眞な學者がどれだけ犠牲になつて來たかを思ふと、全く遺憾に堪えないものがある

或は牛の血を應用した種痘

自分一個人で私有事すること

(つづく)

### 自動車唧筒

#### 陸路を疾走して

明後日平町に到着

廿五馬力のロータリー式

平消防組にて備え付くべき自動車唧筒は此程同組顧問柏原、鈴木兩小頭其他上京日本自動車株式會社より八

### 戀人の家を焼く

#### 火に飛込んで焼死

戀をせかれた雇農夫が

主家に恨みの放火

石城郡永戸村字下永井鈴木峰吉方から十四日午前零時半頃發火住宅、馬屋、土藏等五棟を焼失同二時半頃鎮火したが焼け跡を片附申元同家雇人同村大字北大澤唯一弟佐藤保(二六)の黒焦げ

### 死體を

発見したの

で大騒ぎとなり平署から佐藤警部補急行取調への結果

保は兄唯一が峰吉方から去る大正七年中借受けた百廿圓を勢力でつぐなふべく十九歳の時から前後八年無報酬で農夫に雇はれてゐる中峰吉の長女さき(二五)と

### 私通し

去る三月十五日さきと手を携へて家出し伊達郡川俣町に逃走したところ八日目で追つ手に發見されさきは親元に引戻されると共に保は同家を解雇されその後諸所を流浪數日前兄唯一のもとへ歸つたがさきに深き未練あり峰吉の

### 冷酷な

處置を恨み

### 移出組合

平穀檢に出願

從來常磐炭界に供給された白米は地方米が主として水戸東京方面から來る不檢査の廉價なるものに壓倒されてゐたが此ほど石城郡内一部の米穀商や共同事業として礦山食糧白米移出商組合を組織し左の條件を附し平穀物檢査支所に許可方を出願した

△移出白米搗製買入れは地方生産檢査米を優先とする

△管内檢査米は引下協定する格差を嚴禁し最低價格を東京神田市場のその日新聞に依る四等建値俵單位より五十四錢を控除した値段とすること

△生産者にして檢査をし檢査所に販賣を依託せるものにして檢査所にて幹施せるものは特別の事情なき限り買入ること  
△幹施したる玄米取引代金の支拂は特別の約定なき限り現物を受授した日より五日間を出でざることを  
△檢査事業の奨勵施設に對しては誠意を以て援助すること

### 松ヶ岡公園の

#### 銅線切り犯人か

本日銅線専門の賊捕る

平町松ヶ岡公園の電話銅線切り取り犯人は未だ就縛しないうが本日平署青田刑事部長其他が協力し石城郡警備村小野田炭礦から逮捕して來た同炭礦坑夫安達郡滑津村生れ鈴木榮次(三〇)外一名の所爲に非らずやと睨んで居る同人等は同炭礦にて價格三百圓に當る銅線を窃取し他に情を明かして賣つた事は明白に及んだが其他に就いては未だ口を緘して語らないと

### 一二少年を

縣知事表彰

人命救助で

石城郡上遠野尋常高等小學校高等科二年生同村大瀧上遠野壽男(一六)同村戸の下真



家庭欄

### 冬の化粧水拵へ方

冬はとかく皮膚があれやすく、その爲めなやまされる方は多いやうであります。クリームを用ひると否に

### 全部砂地で

工事に好都合

小名濱商港計畫に關する海底のボーリングは縣から東京の森川組に命じ十月初旬以來行つてゐたが一兩日中に終了の豫定で試験の結果は豫期の如く全部砂地で工事に極めて好都合であることが判つたこの結果により縣では愈々同築港にどの位の工費を要するか實施豫算の調査を進める豫定である

### 屠畜數

馬は縣内第一

百廿一頭減

平屠殺場に於ける十月中の屠畜數は牛十七頭、馬四十七頭、豚七十九頭計百四十三頭で前年の同期に比して百二十頭減少して居る之は不景氣の結果であるが、縣内に於て馬の屠殺數は平が一番である

### 耳の兎

人がたこになる

朝鮮威鏡北道白頭山の麓茂山一帶に遺傳的風土病が發生しつゝあり、目下約三百名の患者があり住民は恐慌を來してゐるが、その症狀は三四年同地方に住居すると手足の各關節がはれ出し全身不隨となりリウマチスの症狀を呈するがつひには骨がニカワ質にのみなつてタコの様になることで學界の注目のもととなつてゐる、總督府には最初リウマチス的一種として問題にされなかつたが最近この原因につき研究ははじめた

### 平町青年團總會

廿三日の全國青年デーに

一同縣社へ參拜

平町青年團にては來る廿三日の全國青年デーに際し午後一時から秋季總會を開催し會旨奉讀、神宮競技出場經過の報告あり三森團長の訓示、團員の演説、大日本青年館主事松原一彦氏の講演等あつて茶話會を開くと尙ほ當日は縣社子鐵倉神社一千年祭に就き一同參拜を爲す由

### 白土氏歡迎會

既報

獨乙留學中の白土萬次郎氏歸朝せるに就き廿一日午後

### ケヤ苗を寄贈

各分團移植

平町青年團元團長大森勇氏が今回平町青年團に櫻苗一千本を寄贈された爲め各分團

### 精勵者が

委員當選

水戸全管を代表する

水戸運輸事務所管内で去る八月中執行した第四回國有鐵道現業委員選舉は同管内の驛員及び車掌千六百名を甲部として六名機關庫及び乙部として五名の合計十一名を選任したものでこの選舉に際し平驛より大多數を以て當選した鈴木七松氏は今回更に右十一名の委員より一名を互選する東京鐵道

### 同委員會

出席水

戸管内現業員を代表し大に氣を吐いてこの程歸平した

がこの名譽ある聯合委員に選ばれた鈴木七松氏は石城郡高久村神谷作に生れ鐵道從業員として職に在ること二十三年その間精勵以てその職に當り勤勉の譽れ高く

### 温厚篤實

な人格者

として同僚間の信望厚く今回の當選を見たもので一般から今後に於ける聯合委員としての活躍を囑目されてゐる